

会 議 記 録

会議名称	令和7年度第3回通学路安全対策推進懇話会
日時	令和8年2月13日（金） 午前10時00分～午前11時15分
場所	秦野市役所教育庁舎3階大会議室A
出席者	別紙「出席者名簿」のとおり
次第	別紙「次第」のとおり

会議の内容は、次のとおりです。

事務局 教育部長	<p><開会></p> <p><教育部長挨拶></p> <p>委員の皆様にはお忙しい中、御参加いただき感謝申し上げます。本日の懇話会では、通学路整備要望への対策状況のほか、来年度の予算の状況、交通安全教室について、説明させていただく予定である。</p> <p>皆様から忌憚のない御意見や御助言をいただきたい。</p>
事務局	<p><議題1 通学路整備要望への対策状況について></p> <p>～資料1、資料1-1について説明～</p>
宇佐美委員	<p>通学路整備要望一覧の中で、「カーブミラーは車やバイク等の運転者が安全を確認するためのものであり、歩行者が安全を確認するためにカーブミラーの設置はできない」という表現があるが、カーブミラーは歩行者も使ってよいものであると認識している。運転者のものである理由はどのようなか。</p>
道路管理課	<p>カーブミラーは、運転者に対する安全確認の補助として設置している。歩行者の目線ではなく、車の目線で設置しているため、このような記載をしている。</p>
宇佐美委員	<p>歩行者のために設置していないため、歩行者は利用してはいけないのか。表現方法について、改めていただきたい。</p> <p>また、歩行者も必要に応じて利用することを教育したほうが</p>

	よいのではないか。
宮川委員	子どもたちにとって、必要な安全対策を第一に考えていく必要がある。
鈴木座長	歩行者が車を見えづらいということは、車も歩行者が見えづらい可能性がある。そのように考えるとカーブミラーは車のためという理由にもなると思う。
道路管理課	歩行者も見える範囲で利用していただけるが、補助的な役割であるため、直接安全確認をしていただく必要はある。 表現方法については、改める。
宇佐美委員	子どもがふざけているから危ないという要望もあったが、交通安全教育をしっかり行う必要があると思う。その上で要望してもらおうようにした方がよいのではないか。
事務局	交通安全教育は学年ごとに集中的に実施している。 登下校中ずっと先生が見守れるわけではないことや登下校は原則保護者の責任となっており、難しい部分はあるが、引き続き交通安全教育を実施するとともに、ハード面での対策も進めていく。
宇佐美委員	子どもたちが道路で遊んでいて事故に遭った場合、運転者からすると、ある意味加害者だと思う。そういったことを理解してもらおうような教育が必要である。
事務局	遊んでいて危険であるため、対策してほしいという要望が増えてきた場合は、検討していく必要があると考えている。
事務局	<議題2 通学路安全対策の実施に係る予算の状況について> ～資料2について説明～
鈴木座長	教育委員会予算のスクールガードリーダー謝礼等は、執行率60%となっているが、予定通り執行予定か。
事務局	概ね執行予定である。
見上委員	スクールガードリーダーについて、教えてほしい。
事務局	警察OBの方に協力いただき、通学路のパトロールや地域の見守りボランティアへの指導等を行っていただいている。

見上委員 色々な取組をしていただいているが、取組について伝わっていないことが多いため、周知していく必要があると思う。

宮川委員 スクールガードリーダー謝礼は、一人に対する予算か。

事務局 現状一人であり、時給換算で謝礼をお支払いしている。

宮川委員 子どもたちの安心安全のため、こういった方々を増やして欲しい。

事務局 <議題3 あいおいニッセイ同和損保との連携による交通安全教室について>
～資料3について説明～

横山委員 小学校2年生と中学校2年生は、6年離れているため、登校班で一緒になっていないため、とても新鮮味があり、小学校2年生としては、新しいお兄さん、お姉さんと取り組むことができ、とても良く面白い組み合わせだと感じた。

見上委員 この組み合わせは意図的なものか。

事務局 全国的に7歳の交通事故が一番多いことや学校生活に慣れてきた時期であり、注意力が散漫になりやすいこと等が考慮されている。

見上委員 第2回の懇話会にて、渋沢小学校において、大型車を使った交通安全教室を実施した旨の報告があった際、大型車の校庭への乗り入れの問題により、学校によっては実施できないこともあると聞いたが、今回のような交通安全教室であれば、全ての学校で実施できると思うし、子どもたちの意識も変わると思うため、とても良い取組だと感じた。

鈴木座長 2年生は学校に慣れてきたり、友達が増えて行動範囲が広がることも考えられる。

事務局 中学校2年生は小学校2年生とのふれあいの中で、責任感や守ってあげたいという思いもありながら、一生懸命参加していた。

鈴木座長 人に教える立場になると責任が生じ、ルールや規範を遵守するようになると言われている。今回の交通安全教室は、中学生

のほうが、より教育効果があり、良い経験になったと思う。

事務局 交通マナーとあるが、どのような内容か。

事務局 道路を渡るときに注意すること等の初歩的なことから歩道の点字ブロックの上に自転車を止めてはいけない等の交通マナーについて、クイズや間違い探しを行った。

鈴木座長 是非色々なシチュエーションでやっていくとよいと思う。

事務局 来年度以降も継続して実施していくのか。

事務局 継続して実施していきたいと考えている。

事務局 <議題4 その他>
～資料4、資料5について説明～

鈴木座長 小学生は下校時、放課後等の事故が多く、中学生は登校時における自転車の事故が多い印象だが、どのようか。

事務局 ご認識のとおり。

鈴木座長 11月から1月は、夕方暗くなるのが早い時期であり、視認性の低下が影響していることも考えられる。

事務局 要因としては十分に考えられるが、事務局で把握しているデータでは、16時頃以降の事故が多い傾向は確認できなかった。

見上委員 横断歩道を渡る時、手を挙げる子もいれば、挙げない子もいる中、子どもたちに交通ルールやマナーをしっかりと教えられているか不安になることがある。

事務局 この懇話会で宇佐美委員から、横断歩道を渡る際、大人も手を挙げて渡るほうがよいとの御意見をいただいた。

地域安全課 地域安全課で幼稚園やこども園、小学校等で交通安全教室を実施していると思うが、どのようか。

地域安全課 幼稚園やこども園、小学校1、2年生には、手を挙げて渡ること等、歩行者としての交通マナー指導、小学校3年生からは、自転車に乗る前の点検から乗り方等の指導、中学生は、県から提供される交通ルールの冊子を基に、各学校で指導してもらっている。

鈴木座長	大人でも自転車のルール等を知らない方もいると思う。そういった冊子等が保護者の手に渡り、保護者にも見てもらうことで、子どもたちがどんなことを習っているのか知ることとはとても良いと思う。交通安全教室等も子どもが学ぶ機会に保護者も学ぶことができるとよいと思う。
地域安全課	交通安全教室を実施した際には、交通安全啓発品を渡している。
見上委員	子どもが加害者になる可能性があり、誰かの人生を変えてしまう可能性があることを考えると、保護者の責任として、家庭での交通安全教育が必要だと思う。
宇佐美委員	青信号なのに横断歩道を渡ることを迷う子どもがたくさんいる。大人も例外ではないが、渡る意思表示をしないと運転手も迷ってしまう。長野県では、歩行者が手を挙げて渡ることを徹底しており、交通事故が少ない。横断歩道を渡るときは、手を挙げて渡ることを徹底して指導したい。
鈴木座長	運転者への意思表示、コミュニケーションが大事である。
宇佐美委員	信号が点滅すると、急いで渡ろうとする子どもも少くない。車も黄色信号になると急いで交差点に進入する。機会があれば止まるよう指導していただきたい。
鈴木座長	見守りサポーター登録者は84名とのことだが、どのようか。
事務局	地域によってばらつきがある。今年度増えてきたが、十分とは考えていない。適正な人数を決めているわけではないが、今後こういった見守り方も大事になってくると考えている。 制度の在り方等について、常に考えながら引き続き周知していきたい。
地域安全課	～自転車ヘルメット購入費補助金及びヘルメット着用率について説明～
鈴木座長	どのように広報しているのか。
地域安全課	「広報はだの」や自治会アプリ「いちのいち」、塾やスポー

事務局

ツクラブでのポスター掲示、小学校の新入学説明会等、様々な方法により広報を行っている。

～その他意見等なし～

<閉会>